

平城京と人々の暮らし

今日の問い

奈良時代の国は、平城京を中心に、人々をどのように治めたのだろう。

左の問いに答えるつもりで、右のノートの下線に語句を書こう。最後に「まとめ」で今日の問いに答えよう。

問い・キーワード

ノート 下線に語句を書こう

1 都はどんなようすだったか。

唐の都・長安にならう

710年、都が奈良の 平城京 に移された。東西の市では産物が売り買いされ、

和同開珎 などの貨幣も使われた。地方から届いた税の荷札である 木簡

から、全国から都へ品物が集められていたことがわかる。

2 人々はどんな負担を負ったか。

戸籍・口分田・租・調・庸

6年ごとにつくる 戸籍 にもとづき、6歳以上の男女に 口分田 が与えられ、

死ぬと国に返させた。このきまりを 班田収授法 という。人々は稲を納める

租、地方の特産物を納める 調、布を納める庸を負担し、兵役もあった。九

州北部の守りにつく兵士を 防人 という。

年表 — この単元のできごと

701

大宝律令が定められる

708

和同開珎がつくられる

710

平城京に都を移す

まとめ

今日の問いに答えよう。「戸籍」「口分田」の2語を使って、2文で書きなさい。

(例)国は戸籍をもとに人々に口分田を与え、そのかわりに租・調・庸などの税や兵役を負わせた。平城京には、全国から税として品物が集められた。

